

まちをまるごとオープンデータにする

事業報告書

厚沢部町 石井淳平

2016年9月29日

概要

町の情報をオープンデータで公開する取り組みを行った。「ローカルウィキあっさぶ」を立ち上げ、町に関する情報をどんなことでも記録して公開する取り組みを行った。執筆者が少数であることやフィールドワーク不在の取り組みとなったことを反省しつつ、地域の魅力を新たに発見し、共有する取り組みを進めていきたい。

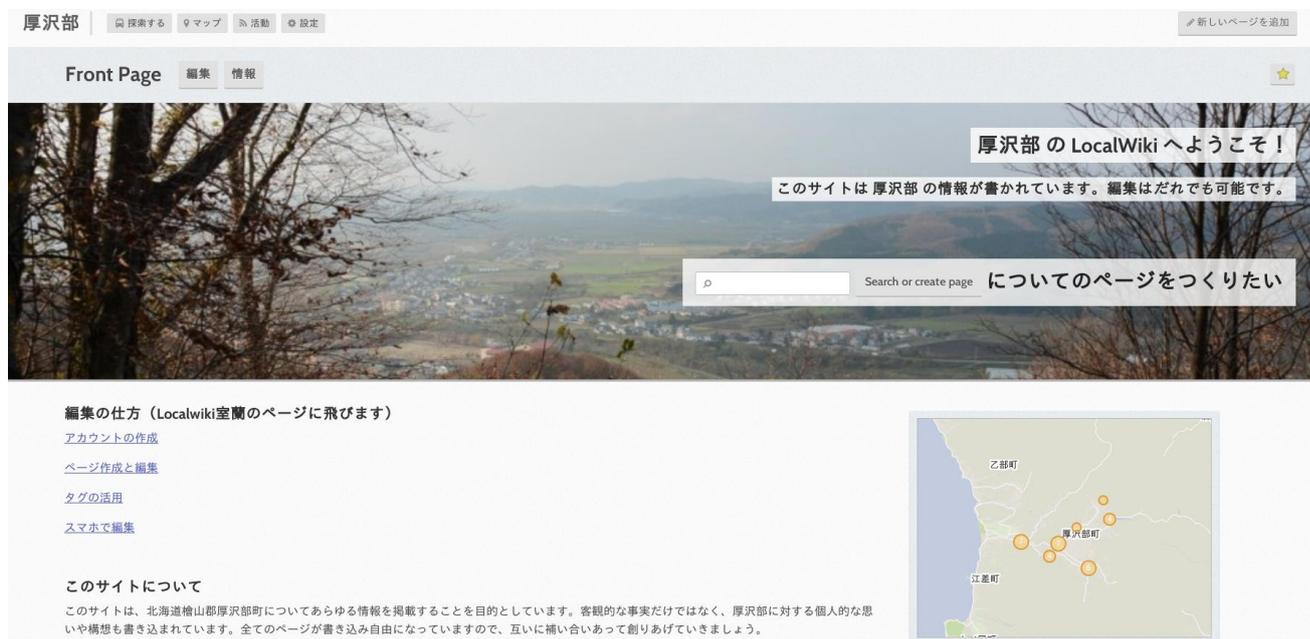


図1 「ローカルウィキあっさぶ」トップページ

1 事業の目的

1. 博物館（学芸員）のもつ地域に関わる様々な情報や写真などをウェブ上のオープンデータとして公開するための手法について研究する。
2. 地域の情報の収集について、住民や地域コミュニティとどのような連携・協力ができるのかを検討する。
3. 情報収集作業を通じて、町の歴史や文化をより深く理解する機会を提供する。

2 事業の内容

2.1 事業の概要

先行事例に学びながら、厚沢部町の地域情報を公開する手法として「ローカルウィキ^{*1}」を選択した。厚沢部町のあらゆる情報が集まるポータルページをめざして、情報の収集と公開を進めた。

キックオフイベントとして先進地の森町（「ハウモリ」）の取り組みを学ぶ学習会を開催した。

まちあるきイベントやワークショップ形式の学習会の開催を予定していたが、講師や日程の調整がつかず未開催である。

2.2 ローカルウィキ厚沢部の開設

2015年12月に「ローカルウィキあっさぶ」を開設し、情報の入力を開始した。当初は文化財に関する情報が主だったが、イベント開催情報や登山記録などを有志によって掲載した。

2.3 キックオフイベント「北海道の田舎町でもICTをうまくつかえば、まちはもっと面白くなる」

日時 2016年2月17日（水）18時30分～
場所 厚沢部町字鶉「カレーとコーヒーの店 カンペ



図2 ローカルウィキあっさぶの周知チラシ

*1 「誰もが自由に、自分の名前で、その土地の情報を LocalWiki に記事として記述し、簡単に地図や画像を添えることができます。記事は誰もが書き換え編集できるので、間違いが無くなり、その土地の共通の考えや異なった意見、知恵などの宝を発信すると同時に保存します。ここに記述されたものは繰り返し、写しとり、手を加え、広められます。この知恵や気づきを普及する仕組みは、その土地に合った、そこに暮らす人々全てが主役の社会制度をつくる前置きの一つになります。」（「LocalWiki Organization Japan」による説明）

シーノ」

講師 山形巧哉さん（ハウモリ、CM4 代表）

参加 11 名

森町でウェブ技術を使ってまちづくりに取り組んでいる山形巧哉さんから、北海道森町（もりまち）を拠点に、「データによるオープンで楽しい街づくり」をめざす「ハウモリ」の取り組みについて紹介いただいた。

どんどんオープンにしてしがらみにあんまりとらわれずに楽しくやっていたらいいですよ、とのこと。2015年11月28日に室蘭ローカルウィキの櫻井さんからローカルウィキの熱い想いを聞いたことがきっかけ。その晩の居酒屋で決意を固めて、ホテルで森町ローカルウィキを立ちあげた。出張先でも立ち上げられるスピード感と気軽さがローカルウィキの特徴。



図3 ローカルウィキの「自由」をPRする山形さん

1858	箱館六ヶ所が箱館奉行所より正式に「村」となったのをきっかけに、森・尾白内が鷺ノ木村より独立し、森村・尾白内村が成立した。	
1868	榎本武揚・土方歳三を初めとした幕府軍が江戸品川沖を出港し、開陽・回天など8隻が鷺ノ木沖に到着し、箱館戦争の始まりとなった。この幕府軍にはジュール・ブリュネやアンドレ・カズヌーヴらフランス人士官らが参加していた。	<input type="button" value="関連"/>
1869	榎本武揚率いる旧幕府脱走軍が松前藩の居城、福山城を攻略したため、松前藩主らは築城途上の館城（現在の厚沢部町城丘）に避難したが、追撃してきた旧幕府軍の攻撃で落城。藩主らは海路対岸の津軽半島に避難した。官軍の攻撃で旧幕府軍が箱館・五稜郭で降伏し、松前の所領回復後も松前藩は館城を拠点として「館藩」と名乗った。	<input type="button" value="榎本武揚"/> <input type="button" value="館城"/>
1871	館藩は、廃藩置県の際には青森県に属した。	<input type="button" value="廃藩置県"/> <input type="button" value="青森県"/>
1872	開拓使森出張所を設置、管轄は森村、尾白内村、鷺ノ木村、宿野辺村の4村であった。函館に次ぐ道南の主要地となる。また、同年、森村産出の茅部炭を材木とし、日本では初と言われる防蝕処理（防蝕剤は鷺ノ木村で湧出していた石油を使用）を施された栈橋が築造され、完成とともに室蘭港との定期便が運行された。	北海道開拓使の管轄となる。 <input type="button" value="開拓使"/>
1873	札幌本道（日本初の本格的馬車道）の開通に伴い駅通所ができる。札幌本道は、函館～森間は道路であったが、森～室蘭間が海路とされた。また、同年10月にベンジャミン・スミス・ライマンにより鷺ノ木の地質調査が実施された。	

図4 ハウモリの開発したウィキ町史ビューアで森町と厚沢部の町史を並列で眺める。LOD チャレンジでアイデア部門最優秀賞！！

2.4 プチ縦走！ 太鼓山から鶉までハイキング

日時 2016年4月10日（日）9時ごろから3時間

場所 厚沢部本町～太鼓山～字鶉

参加 大人17名、子ども5名

商店街のくらの製菓さん横の神明社の鳥居ををスタート、太鼓山を越えて山道を進み、林道との合流



図5 ローカルウィキに掲載した「プチ縦走！太鼓山から鶉までハイキング」記事

点へ。その後は林道を鶉 NHK 線入りロゲートまで歩いた。ゴール到着後、あらかじめゴール地点に止めておいた車に分乗してスタート地点に戻り、解散した。

このイベントは共同執筆者が主催したもので、共同執筆者は当時はまっていたスマホの地図アプリの実地試験も兼ねていたようである。彼のスマホが記録した当日のデータは下記のとおり。スマホのログもローカルウィキに掲載されている。

移動距離 6.1km
 行動時間 約 3 時間
 最低高度 9m
 最高高度 178m

2.5 ローカルウィキあっさぶ執筆作業の実際

ローカルウィキあっさぶのスタート時点で主な執筆者は研究代表者の石井を含めて 2 名で、基本的にはこの 2 名以外に執筆者を増やすことができなかった。他の地域のローカルウィキ編集者が書き込みをしてくれたこともあるが、在町の執筆者が必要である。

執筆の分担などは行っていないが、石井が文化遺産情報を中心に、これまでの文化遺産の紹介文章や広報掲載文章の書き込みを行った。もう 1 名の執筆者は厚沢部町のおすすめスポットや登山・ハイキング記録を中心に書き込みをおこなった。

9 月 29 日現在、記事数は 59 本となっている。

3 今後の課題と反省

3.1 反省

フィールドワーク不在 当初予定していたまちあるきイベントなどフィールドワークは共同執筆者が行った太鼓山縦走のみだった。単にウェブページを編集するだけではなく、実際にまちを歩いて感想を述べ合うことがまちづくりや文化遺産の活用には大切であり、ローカルウィキの編集はその手段

である。フィールドワークを中心に事業展開できなかったことで効果は半減した。

執筆者少数 執筆者を 2 名しか確保できなかった。単に記事量が思うように増加しないということ以上に、記事のバリエーションを欠くこととなり、魅力あるウィキとなることを妨げる原因となっている。執筆者が少数であることの理由として、町内で文章執筆や写真撮影が得意な住民は、すでにブログや HP 等のメディアを個人で所有しており、執筆欲をかきたてられることが少ないためと考える。

3.2 今後の課題

今後の課題は以下の 3 点にまとめられる。

- フィールドワークとセットになった執筆活動
- スポーツ少年団等の団体 HP としての活用
- 行政の持つ情報の転載
- 町内の「アルファブロガー」の執筆欲をかきたてる工夫

フィールドワークとセットになった執筆活動

まち歩きやハイキング、レクリエーションなどの活動を通じて執筆活動を進めることが必要である。

フィールドワークは参加者が体験を共有することから、同じ体験を異なる視点で執筆することが可能になる。また、活動が客観的に記録され、公開されることで体験の意義を再確認できるメリットがある。

スポーツ少年団等の団体 HP としての活用

ローカルウィキは単に土地に根ざした事実だけではなく、ローカルな団体の情報も対象になる。スポーツ少年団や文化団体などはローカルな活動をする団体の代表であり、こうした団体の多くは周知する媒体をもっていない。これらの団体が競技会等の成績や活動実績をローカルウィキに記録することで、団体の PR につながる。また、記録が残されることで活動の継承がスムーズに行われ、世代交代に伴う団体の衰退の防止に寄与すると考えられる。

行政のもつ情報の転載

行政の刊行物として作成された資料の多くは原則として自由に転載することができる^{*2}。こうした情報を適切な手法で転載し、住民が利用できるように公開することで、ローカルウィキの利便性が向上すると考えられる。

郷土資料はもちろん、予算決算や行政報告、町の総合計画等の情報が必要である。

^{*2} 国若しくは地方公共団体の機関、独立行政法人又は地方独立行政法人が一般に周知させることを目的として作成し、その著作の名義の下に公表する広報資料、調査統計資料、報告書その他これらに類する著作物は、説明の材料として新聞紙、雑誌その他の刊行物に転載することができる。ただし、これを禁止する旨の表示がある場合は、この限りでない。（著作権法第 32 条第 2 項）

町内の「アルファブロガー」の執筆欲をかきたてる工夫

すでにブログ等で町の情報を発信している「アルファブロガー」的な住民^{*3}をローカルウィキの編集・執筆に取り込むことが必要である。

その場合、個人のブログとローカルウィキとの役割分担を明確にすることが必要である。本研究代表の石井も個人ブログを開設しているが、どうしてもローカルウィキではなく、個人ブログに記事を投稿してしまう傾向がある。個人ブログではなく、ローカルウィキに投稿することの意義を広めることや、個人ブログとローカルウィキの二重投稿を推奨することで対策していきたい。

謝辞

ローカルウィキの存在を知ったのは、江差町教育委員会の宮原浩さんとの会話からである。2015年夏頃、歴史文化基本構想策定のために膨大な数の文化遺産の収集を行い、そのデータをどのように住民と共有するか悩んでいた宮原さんとアイデアを交換したことがある。その中で「ローカルウィキって知ってる？」という問いかけを受けたのがきっかけであった。

その後、宮原さんはグーグルのサービスを利用した文化遺産データベースを構築し、すでに江差町ホームページからリンクを貼り公開している。ローカルウィキと出会うきっかけを与えてくれた宮原さんに感謝したい。本報告執筆時点では未実施だが、2016年9月24日に文化遺産データベースについての報告会の講師をお願いしている。

また、2月17日におこなったキックオフイベントの講師として忙しい中來町し、多くの助言をいただいたハウモリ代表の山形巧哉さんにもお礼を申し上げたい。

「ローカルウィキあっさぶ」の取り組みを見守り、トップページで紹介していただいているローカルウィキ室蘭のみなさまにも感謝したい。ローカルウィキの投稿ルールや操作方法などはローカルウィキ室蘭にリンクを貼らせていただいている。

共同執筆者として研究代表者以上に熱心に投稿をしていただいている厚沢部町字鶉の「カレーとコーヒーの店 カンペシーノ」のマスター、藤岡俊吾氏にも店舗を学習会会場として使用させていただいていることも含めて敬意と感謝を表したい。

^{*3} 例えば厚沢部町在住のN氏は写真を中心とした「こんなものを見た」(<http://arisuabu.exblog.jp/>)というブログをかなりの頻度で更新しているが、氏の写真の中には教科書指導書に採用されたものもある。